

渋谷川・古川流域連絡会議事録(第1回)

開催日時 平成13年9月7日(金)13:30～15:30

開催場所 恵比寿駅東口施設



第1回 会議風景

議事

平成13年9月7日(金)、午後1時30分から、恵比寿駅東口施設において、第1回の渋谷川・古川流域連絡会を開催しました。都民委員11名、行政委員10名が出席し、「過去の検討経緯、今後の川づくりの基本方針」、「渋谷川・古川における改修の現状及び今後の課題」、「渋谷区及び港区における街づくり」を議題に、都民委員と行政委員による意見交換を行いました。

会議冒頭に、東京都第七建設事務所長が挨拶を行った後、本会の座長及び副座長を選出しました。座長は、守田氏(芝浦工業大学教授)、副座長は、高橋(東京都第七建設事務所 副所長)です。

第一の議題として、過去の検討経緯や今後の川づくりの基本方針について、東京都建設局河川部から報告しました。

過去の川づくりの経緯をふまえ、河川と街がどのように連携していけば、人々から愛される川ができるのかということで、平成10年2月から9月に「渋谷川・古川流域懇談会」を設置し、検討をしました。

ひとつの事例として、「ゾーニング」について報告しました。「地域の特性を考えた渋谷川・古川のゾーニング」は、基本理念「都市のにぎわいと人々にうるおいとやすらぎをもたらす河川の再生」というテーマを基に、「人々が近づける川」、「少しでも自然を感じる川」、「地域の顔としての川」、「安全な川」の4つの整備方針を視点として検討してきました。

第二の議題の内、渋谷川改修の現状と今後の予定について、第七建設事務所から報告しました。

渋谷川は宮益橋～天現寺橋間の約2.6kmの二級河川であり、宮益橋～稲荷橋の0.2kmは昭和37年に暗渠化され、宮益橋から上流は東京都下水道局管理の下水道管となっています。昭和61年度から平成2年度に

稲荷橋から渋谷橋の1.3km区間の改修は完了し、平成3年度以降、下流の天現寺橋から渋谷橋までの改修に着手し、現在93%完了しています。平成13,14年度で残りの7%(160m)の改修工事を実施し、全川50mm/hrの治水安全度を確保します。

今後予定の160m区間は、ゾーニングに基づき密集市街地の貴重なオープンスペースとしての空間創造を期待し、渋谷区や公園利用の周辺住民の方々の意見を聞きながら、恵比寿東公園と一体となった整備を考えています。また、護岸構造は構造上安全が確保される範囲で右岸護岸の立ち上がりを途中で止め、将来の環境整備に制約を与えない方針です。

第二の議題の内、古川改修の現状と今後の課題について、第二建設事務所から報告しました。

古川は天現寺橋～河口浜崎橋間の4.4kmであり、その内下流の1.3kmは高潮事業区間です。管理体制は、維持修繕を港区、機能アップ・環境整備を東京都で行い、船での河床浚渫事業は、東京都の第一建設事務所で行っています。

水質については金杉橋で定点観測を実施しており、BOD値は、昭和46年時に45mg/lだったものが、平成11年度は平均2.3mg/lに低下しています。しかし、大腸菌等が多量に含まれており、まだ多摩川のように川に入って遊ぶという状況ではありません。また、水害記録については平成11年8月に古川橋～三之橋付近で浸水面積10ha、浸水被害250戸が発生しています。(昭和33年狩野川台風、昭和57年11月にも浸水発生)

さらに平成11年8月には護岸の一部が崩壊し、災害復旧工事を実施しました。古川は、護岸自体が昭和初期に完成したもので老朽化が進んでおり、平成11年東京都水防計画の中で、実態調査を基に、1590mを「注意を要する箇所」と指定しました。

古川の整備状況は、高潮区間はほぼ完了していますが、金杉橋～JR間は船宿との交渉が難航しており未整備状態です。中小河川区間については、一之橋と二之橋間の一部は平成12年度に拠点整備として完了し、新古川橋～四之橋左岸の一部は平成12年度に護岸整備が完了しています。

今後、金杉橋～JR間の右岸側は、再開発事業とともに河川整備を14年度に実施する予定です。また、四之橋～五之橋の右岸は、13年・14年度で拠点整備として実施し、天現寺橋下流左右岸30mは今年度～来年度の2年間、その下流は14年度以降に整備する予定です。

第三の議題の内、渋谷区における街づくりについて、渋谷区から報告がありました。

昨年3月に「みどりと水・潤いのあるまちづくりの方針」を基本に、明治神宮、代々木公園、旧玉川上水といったみどりと水の空間軸を形成していく方針として「渋谷区都市計画マスタープラン」をまとめました。このマスタープランの実現に向けて、区民や企業の方々と役割分担をしながら、「協働型まちづくり」に取り組んでいきます。渋谷駅周辺については7月に「渋谷駅周辺整備ガイドプラン21構想」により委員会を立ち上げ、11月にはシンポジウム開催の予定です。また、恵比寿東公園については、河川整備との相乗効果により公園も良くなる形が望ましいと考えています。

第三の議題の内、港区における街づくりについて、港区から報告がありました。

古川橋から三之橋間について、平成11年に出水したことに伴い、護岸の簡易的な高上げ工事を11月から来春までに実施する予定です。また、「三田小山町」において街づくりを検討しており、合わせて国土交通省の河川のモデルケースとして街づくりの中に河川をどのような形で取り組んで整備できるかを検討中です。

意見交換

(都民委員) 古川と渋谷川の境はどこか。また、渋谷川の上流は暗渠になっているが、川ではなくなっているのか。

(行政委員) 渋谷川と古川は天現寺橋が境(区境)です。また、二級河川の上流端は宮益橋になります。この上流は河川を廃止し、下水道幹線となっています。

(都民委員) 東横デパートが渋谷川の上にてできているが、不法なのでは。また、撤去できないのか。

(行政委員) 昭和の初期にデパートができてしまった。例えば、街づくりの中でデパートの移動等を考慮していないと撤去は難しい。

(都民委員) 神田川では浸水予想区域図が提示されているが、渋谷川ではどうか。

(行政委員) 2年間の中で約束はできませんが、浸水予想区域図を第一段階として作成する予定です。(平成16年5月に作成済) その後、避難場所、ルートを示したハザードマップを提示したい。

(都民委員) 川の汚れについて BOD の数値いかなではなく、実際に川と親しめる状況にあるかが問題である。BOD はどのくらいの数値なのか。魚が十分棲めるためにはどの程度の数値なのか。大雨の後は臭気が漂う状態である。また、BOD 基準が 8ppm とのことであるが、この数値自体も時代遅れの数値となっていないか。

(行政委員) BOD は平成9年度に見直しを行い、10ppm から 8ppm に設定しています。基準値設定にあたり、利水状況も考慮して設定しています。古川は農業用水、漁業、水道水として利用していないので、そういった基準設定となっています。

(都民委員) 恵比寿東公園については2年間で護岸工事が完了するが、河川と公園の一体整備で渋谷区の考え、都の方針、住民の考え等の調整が必要である。

(行政委員) 護岸整備は中断することはできません。自由度を残した形で工事を進めたい。それと平行して、管理者、住民、この連絡会等を通じて総合的に合意形成できれば、公園との一体整備が実現すると考えています。

(都民委員) 近年集中豪雨が多くなってきている。50mm/hr 対応では処理できない状況となっているが、水に触るとのことよりも第一に治水安全度の確保が必要と思われるが。

(行政委員) 一般的に河川の治水レベルをいきなりアップすることは難しい。昭和50年代に 30mm/hr 対応を完了し、40年代に 50mm/hr 整備に移行し、順次ステップアップしてきたが、現時点で 50mm/hr までしか対応できない。それ以上の降雨に対して、普段の生活様式で工夫をしていただくことも考えなければならない。このよう

なことから神田川等では浸水予想区域図を公表している。

(都民委員)河川整備だけで対応するのではなく、透水性舗装や緑地の増加等での対応が必要ではないか。

(行政委員)このような方法は、下水道の整備も含めて、総合的な流域対策と称して実施しているが、区と一体となり民間(住民)の方にもお願いしている。(歩道については基本的に透水性舗装を行っている。透水性舗装への変更は新設及び打ち替え時に行う。)

この他に、次のような意見がありました。

・現在の水質状況であれば水辺に近づきたくはない。護岸の設計と合わせて水質との関連についても整理が必要だ。

・川の親しみ方も、手で触れる親しみ方もあれば、水の流れを眺めることで親しむ方法もある。親しむ方法を整理することが必要である。また、橋から川を眺めるといった視点から、橋の幅に自由度を持たせ、人と車が通過するだけではなく、付加機能を追加し、川を眺める拠点としての整備も考えられる。そういった視点で川サイドとしてイニシアチブをとっていくことも大事なのでは。

・かつて、明治神宮、新宿御苑、多摩川台地から湧水により「穂田川」があったが、暗渠になってしまった。せめて2層構造の採用等で、水辺を確保してもらえば、ヒートアイランド現象等の緩和にもつながる。また、みどりと水の空間軸の中に入っているので、是非実現していただきたい。